

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381075

研究課題名(和文)社会教育職員の省察的実践者としての力量形成と組織学習に関する事例研究とその理論化

研究課題名(英文)Studies of practice and theory in and on professional development of the community learning coordinator as the reflective practitioner

研究代表者

柳澤 昌一 (Yanagisawa, Shoichi)

福井大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：70191153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：今回の研究プロジェクトにおいては省察的実践者の長期にわたる力量形成の歩みの跡づけを進めてきた。この跡づけを通して、省察的実践者の力量形成を支える以下のような要因・条件が明らかになってきた。

実践と省察の持続的、再構成的に積み重ねられていくこと 省察的なコミュニケーションが実践の中に、また実践を主題として展開されること

そうした省察的コミュニケーションを重層的に発展させていくための組織化 実践の長期的経時的プロセスをめぐる省察的記述 コミュニティ学習コーディネーターの省察的実践者としての力量形成を支える学習を組織するためには、上記の4つの要因・条件を持つ組織学習を実現が必要となる。

研究成果の概要(英文)：D. A. Schon's concept of Reflective Practitioner is suitable for community learning coordinators and the professional in this changing world.

As Schon describes, the process of professional development of the Reflective Practitioner need durational cycle of practice, reflection, and frame reconstruction. In our research project, we follow the long trajectory of professional development of the Reflective Practitioner. In this research, we found the factors and condition sustain the professional development as reflective practitioner. durational and reconstructive practice and reflection cycle reflective communication in and on practice organizations of meta-reflective communication reflective description on the longitudinal process of practice To coordinate the learning for professional development of community learning coordinators as reflective practitioner, we need organizational learning with these 4 factors and conditions.

研究分野：教育学 社会教育 生涯学習 教師教育

 キーワード：省察的実践 ドナルド・A・ショーン 組織学習 社会教育職員 コミュニティ学習支援 専門職教育
 学習過程研究

1. 研究開始当初の背景

日本における省察的実践者研究の展開

ショーンの省察的実践者の提起をめぐる研究は、導入と展開の段階を越えて、長期的力量形成の実態を解明し、それを支える組織を実現するための研究が求められてきている。

社会教育研究における社会教育職員の専門性と力量形成をめぐる研究の展開

社会教育研究の分野では、1980年代以後の社会教育実践研究の展開とその後の省察的実践者概念の提起を受けて、社会教育専門職の力量形成にむけての研究と実践が進みつつある。

省察と実践のサイクルを中心に据えた社会教育専門職の力量形成の取り組み

1980年代以後の社会教育実践研究の展開とその後の省察的実践者概念の提起を受けて、社会教育専門職の力量形成にむけての研究と実践が進みつつある。

こうした職員研修・職員養成改革の取り組みが現に進められつつあることを踏まえ、省察的実践者の実践の中での力量、そしてその力量の長期にわたる形成過程、さらにはそれを支える学習組織の構成とデザインについて、実際の取り組みとその記録に基づいて解明し、さらにその展開の枠組みを理論化していくことが必要となってきた。

2. 研究の目的

本研究は、省察的実践者としての社会教育職員の長期的な力量形成とその支援組織の編成の分析と理論化を目的とする。

D.A. ショーン(Donald A.Schön)の省察的実践概念(reflective practitioner)の提起は、教師・社会教育職員・看護師をはじめ対人援助職の力量形成研究に影響を与えてきている。本研究は実践者の力量形成過程を明らかにすることにより省察的実践者研究を進めるものとなる。

同時に、社会教育職員・教師をはじめとす

る専門職教育改革に資する研究となる。

3. 研究の方法

以下の4つのアプローチを連動させて進める。

A. 概念・方法論の省察：*The Reflective Practitioner* (1983), *Educating the Reflective Practitioner*(1987)を中心に

ショーンの省察的実践者の力量形成と組織学習をめぐる概念と方法を明らかにする。

B. 長期力量形成分析 A を踏まえ、社会教育実践の記録と研究の集積をふまえ、長期にわたる社会教育職員の力量形成過程を跡づけ、職員の力量形成を支える要因を解明する。

C. 研修組織の編成分析実際に展開されつつある研修にかかわって、実践者の省察的実践者としての成長過程とそれを支える研究の構成と組織を、記録と聞き取り調査によって分析する。

D. 総合的考察 A・B・C の三つのアプローチをつき合わせることにより、長期にわたる省察的実践者の力量形成過程とそれを支える研修や実践の組織のあり方を明らかにする。

4. 研究成果

A. 概念・方法論の省察ショーンの省察的実践者と組織学習をめぐる研究の検討

ショーンは、その主著『省察的実践とは何か』において状況との対話を通して、省察的に思考し状況に働きかけるプロセスを解明し、専門性の核心に据える。同時に、そうした省察的実践者としての力量形成を解明しそれを支える専門職教育組織のあり方を巡り二つの課題を提起している。

一つは、省察的実践者の力量形成過程が、長期にわたる実践と省察の積み重ねを要することを踏まえて、その長期過程を跡づける研究の重要性と必要性の提起であり、もう一つは、省察的実践者を育てる専門職教育組織の構成にかかわって、実践の場における省察が前線となり、それと密接に連携協働する形で

の大学組織を構築し、実践の場での省察的実践の発展と大学におけるその研究とを連動させて発展させていく構想である。The *Reflective Practitioner* (1983), *Educating the Reflective Practitioner* (1987)を踏まえ、これらの理論的提起を考察し、省察的実践者の力量形成とその組織の枠組みを検討した。力量形成の中軸となる省察的実習 reflective practicumの構成とその展開分析がもっとも重要な鍵となる。

B. 長期力量形成分析：社会教育実践記録・社会教育実践研究に基づく職員の長期的な力量形成過程の跡づけ

1970年代から80年代にかけて、戦後の社会教育実践の積み重ねを踏まえ、長期にわたる社会教育実践の展開を、当事者自身が記録するとともに省察した実践記録（実践研究）が刊行され、こうした記録を踏まえた実践研究が、1980年代末以降、蓄積されてきている。これらの記録の中には、30年近い実践の積み重ねとそれを通じた実践者の成長過程をとらえることの出来る記録が存在している。東京都の国立市公民館保育室運営会議の記録、長野県下伊那郡松川町の健康問題学習を中心とする学習と組織活動の記録、福井県福井市の公民館主事の実践記録等がその代表的な記録である。それぞれの長期的な実践展開の記録を時系列に即して跡づけ、そこでの実践の長期的な展開、それと相即する実践者の実践者の実践把握（実践省察）と実践組織力の発展を析出することによって、長期にわたるそれぞれの実践者の力量形成過程を明らかにしていく。これらの長期的分析を相互に比較することによって、また、こうした長期的な実践と省察が抑止されている現状と比較分析することによって、省察的実践者の力量形成過程とそれを支える要因についての析出を進めた。そこから析出されるもっとも重要な要因・条件は以下の4点である。

実践と省察の持続的、再構成的に積み重ねられていくこと

省察的なコミュニケーションが実践の中に、また実践を主題として展開されること

そうした省察的コミュニケーションを重層的に発展させていくための組織化

実践の長期的経時的プロセスをめぐる省察的記述

この4つの構成は、ショーンの省察的実習をめぐる事例にも照応しているが、の組織化、における実践記録の組織化という点ではここで取り上げた日本の取り組みの方がより高度化されている。

C. 研修組織の編成分析

実際に展開されつつある研修にかかわって、実践者の省察的実践者としての成長過程とそれを支える研究の構成と組織を、記録と聞き取り調査によって分析する。

下記の四つの研修において、上記の4つの省察的実践力形成の要件・条件を組み込んだ専門職学習コミュニティの取り組みを進めた。

福井大学と福井市教育委員会の協働により2年間の長期研修（履修証明プログラム）
「学び合うコミュニティを培う」

コミュニティ学習支援士養成講座～おとなの学びを支援する実践力を培う～

2015年度神奈川大学みなとみらいエクステンションセンター：市民の学び合いを支える実践力を培う～コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座～

[平成27年度]東京学芸大学公開講座/東京都公民館連絡協議会連携研修

その成果は、それぞれの講座の年次報告書としてまとめられている。

D. 総合的考察

A・B・Cの三つのアプローチをつき合わせることにより、長期にわたる省察的実践者

の力量形成過程とそれを支える研修や実践の組織のあり方を明らかにする。

省察的カンファレンスと通じて、自身の実践の展開を、他の実践者の実践の展開とも照らし合わせながらとらえ返し、そこでの省察を次の実践の構想と展開に活かしていくサイクルの積み重ね、そうした実践展開の省察を記録にまとめ、さらに持続的に実践・省察し記録化し、その積み重ねをより長期の展開としてとらえ返ししていく営みを通して、またより多くの実践者の取り組みを長期的に跡づけていく取り組みを通して、実践者自身が自らの実践をとらえる基本的な枠組みが発展していくことが、初期の記録からその後の記録まで、経時的に実践記録を跡づけることによって明確となってくる。初期の、短期的な活動の実感に集中したとらえ返しから、より長期的な展望を持ち、その中で個々の場面をとらえ、働きかけていく方向へと実践のとらえ方は変化していく。また初期の短期的に成功・失敗に集中する見方は、より長い一人一人の学習とコミュニティの発展のプロセスの中で、そのことがどのような意味があるのかを探る見方へと展開していく。

そしてこうした見方の発展が生まれてくる基盤として、長い実践の積み重ねとともに、記録を活かしてそれをより長いつながりの中で省察していく省察的学習プロセスとその組織に支えられている。

従来の研修は、新しい課題や知識を提起することに主眼が置かれていたといえるだろうが、それが単発的短期的な講義やワークショップという形で行われる限り、その中では自身の実践をより深くとらえ返し、互いに共有し省察を深めていく機会として作用することは難しい。また実践の場では、つねに新しい課題に対応していくことに忙しく、実践をじっくりとらえ返ししていく機会を実現することは難しい。こうした状況に実践と研修・学習の場が止まる限りは、省察的実践者としての

力量形成の機会は閉ざされていることになる。研修の場を実践者同士が互いの実践を省察し協働探究する場として組織し、実践と省察のサイクルを、適切なインターバルとそれに相応しい対話的なコミュニケーション編成に配慮しながらコーディネートしていくことが、コミュニティにおける学習支援者・コーディネーターの力量形成にとって最も重要な基盤となる。

今後の課題：制度化のための研究

省察的実践者としての力量形成を支える組織学習・専門職学習コミュニティの要件・条件にかなう学習組織をどう発展させていくかについて、より組織的な研究が必要となる。その広範な展開と制度化への展望をひらくためにも、専門職教育の評価の高度化とその制度化が不可欠となる。また、社会教育にとどまらず、より多くの専門職の教育における省察的実践の力量形成について、こうした知見を活かしていくことが求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

柳沢昌一，省察的実践者としての教師の協働探究を支える - 学校拠点の専門職学習コミュニティとそれを支える省察的機構への展望 - ，日本臨床教育学会『臨床教育学研究』Vol.3, (査読あり) pp.53-66 2015.6 .

柳沢昌一，実践コミュニティとしての学校づくり，『月刊高校教育』学事出版，(査読なし)，pp.72-73，2014.12.

柳沢昌一，コミュニティ学習支援者の実践力形成を支える福井大学履修証明プログラム，『社会教育職員研究』，(査読なし)，pp.23-25，2014.

柳沢昌一，「学校における〈実践と省察のコミュニティ〉を支える省察的機構として

の教職大学院」,大阪教育大学『第13回スクールリーダー・フォーラム報告書』,(査読なし),pp.11-13,2013.

〔学会発表〕(計2件)

柳沢昌一,日本社会教育学会6月研究集会2015.6.6(プロジェクト研究「学びあうコミュニティを支えるコーディネーターの力量形成とその組織」)(立教大学)「コーディネーターの力量形成とその組織(3)-課題整理と今後の展望」報告3 今後の方向性を探る-力量形成プロセスを支援するコミュニティ・組織・制度への展望のために-

柳沢昌一,日本社会教育学会第60回研究大会職員問題シンポジウム2013.09.28(東京学芸大学)長期にわたる「実践と省察のサイクル」を支え合う専門職学習コミュニティ 福井市と福井大学の協働による公民館職員の研修

〔図書〕(計1件)

日本社会教育学会編『地域を支える人々の学習支援—社会教育関連職員の役割と力量形成—』,東洋館出版社,(査読あり),
(分担)「実践と省察のサイクルを通して実践力を培う—福井大学の履修証明プログラム—」柳沢昌一,pp.162-173,2015.10.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等 なし

6.研究組織

(1)研究代表者

柳澤 昌一

(Yanagisawa, Shoichi) 英語表記
福井大学・教育学研究科・教授(部局)
研究者番号:70191153

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし